

社会福祉施設におけるその他の環境等を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	8～9	出勤時、契約駐車場に車を止め事業所に行く途中で転倒する。駐車場内は、前夜に雪が降り、氷結路面に雪がある滑りやすい状況だった。	49	—
1	21～22	アイスホッケー場の散水作業を終え、散水用のホースを畳み、いつも保管してある管理棟へしまいに行く途中、管理棟が少し下った所にあり坂になっているため滑って転倒し、左足の踝を骨折した。	71	10～29
1	19～20	入浴介護で利用者様を浴室の床からイスへ引き上げた時に痛めた。	46	10～29
1	18～19	会社の敷地内にある倉庫へゴミを置きに移動中、地面が凍っていたため滑り転倒し、左腕を痛めた。	27	1～9
1	8～9	デイサービス利用者宅の玄関前スロープで、送迎時に地面の氷に足を滑らせ転倒した。転倒の際に左足が内股になり、足首の内側を氷にぶつけた瞬間にくるぶしに痛みが出現し、足をつくことが困難になった。	54	—
1	7～8	通勤完了後、法人敷地内にマイカーを駐車し、施設内へ入ろうとして社用車駐車場所を通ったところ路面が凍結しており、足を滑らせて転倒し、右足首を捻り、頭部を社用車にぶつけた。	30	100～299
1	18～19	帰宅のため職場の玄関を出て敷地内の駐車場へ行く途中、凍結した路面で滑って転び、左膝を路面に強く打った。	66	50～99
		上司の指示により簡単な雪片付けをしたあと、別の雪はねの道具を取りに事務所に		

1	8~9	向かい、その後、事務所職員用として借りている駐車場まで歩行し、その駐車場わきで、路面が凍っていることに気がつかず、不注意で滑り、背部より転倒し負傷した。	57	—
1	9~10	道路上にて停車し、車両左側のスライドドアを閉め、車両の前を通過して運転席に戻ろうとしたが、その途中の助手席辺りのカドを曲がろうとしたところで凍結しており、足を滑らせて転倒した。	60	50~99
1	8~9	デイサービス利用者宅の庭において、車イスの利用者の移動介助をしていた際、予想以上に重かったため耐えきれず、右膝をひねり負傷した。	48	—
1	13~14	デイサービスセンターにおいて、利用者（男性、69歳、認知症）が、1人で外に出ようとし、1回目は止めたが、2回目の時も止めに入ったところ、入口付近でいきなり利用者に左頬を思い切り3回叩かれ、そのあと首と頬に痛みを感じ、状態が良くなることもなく、目もかすむようになり悪化した。	59	—
1	16~17	入浴時の着脱介助中、もう一人の生活支援員抱き足のタイミングが合わなかった。そのため、当該者が利用者を一人で抱えるようになり、そのときに腰に痛みが生じた。	33	100~299
1	7~8	職員玄関より出て、送迎に使用する車を駐車場までとりに向かう途中路面が凍結しており、滑って転倒した。	42	100~299
1	8~9	老人保健施設前の駐車場で送迎車両を出す準備をしている時に一台目にキーをつけ、二台目にキーをつけるため、車の後ろを通った際に地面が凍結しており、左足が前に滑り、右足を内側に捻るような感じで右膝を地面についた。	59	100~299
1	8~9	敷地内駐車場から施設への移動時、凍結した地面で滑って転倒し、第一腰椎椎体骨折を負った。	36	—
1	8~9	朝出勤し、駐車場に車をとめ仕事場まで歩いている時、玄関前が凍っていて足元が滑り転倒し、右手を地面について負傷した。	55	—
1	7~8	朝、出勤し事業所敷地駐車場を歩行している際に、凍結した路面で滑り転倒した際に右手首を受傷した。	49	—

1	8～9	デイサービス利用者宅へ迎えに行き玄関に向かう際、凍結していたコンクリートの庭先にて転倒し、咄嗟に左手をついたが体を支えきれず、横向きに転倒し、顔面左側を強打した。	66	—
1	15～16	当施設敷地内にて、ご利用者宅へ訪問リハビリへ行く為公用車を取りに向かった所、路面凍結箇所があり、そこで足を滑らせ転倒し骨折した。	41	50～99
1	15～16	児童のお迎えの時、集合場所にて、子供たちを整列させようとしていた。整列しない児童を走りながらつかまえようとした時に後方に雪山があり、つまずいて後ろ向きに腰をひねりながら転んでしまい、左腰骨を骨折した。	66	—
1	9～10	デイサービス利用者宅に送迎に行こうと運転中、利用者宅周辺の坂道の路面が凍結していた為、塩化カルシウムを探そうと車外に降りた際、路面の凍結のため足元が滑り転倒し、尻もちをついた後、右肘の内側を強打し、尺側側副靭帯を損傷した。	25	100～299
1	8～9	利用者の方をトイレに誘導中、同利用者により右足脛の横を蹴られ、右側腰部に激痛がはしり、腰椎圧迫骨折を負った。	68	—
1	7～8	敷地内を徒歩で移動中に、地面が凍っていたため滑って転倒し、右足首を負傷する。	21	50～99
1	18～19	夜まで勤務し、帰宅するため職員駐車場へ向かった。職員で雪かきはしていたが、圧雪と夕方の冷え込みで滑りやすくなっており転倒し、その際に右手をつき手首を痛めた。しばらくその場に座り込み、気分が悪くなってきたので園に戻り、救急搬送された。	56	10～29
1	9～10	デイサービスご利用者様の補聴器の交換が必要となり、隣接しているサービス付き高齢者向け住宅へ歩いて行き、施設へ帰る途中に地面の圧雪に足を滑らせ転倒した。右足の足首に強い痛みと腫脹があり、右足足関節骨折と判明した。当日は大雪のため積雪があった。	61	10～29
1	18～19	宿直勤務の為、病棟室に向かう廊下の扉から外にある霊安室の戸締りの確認に行こうとしたところ、スロープが凍結しており、足を滑らせて後ろに転倒した際に左手	56	100～

		をつき、手首に圧がかかり激痛がはしり、骨折となった。		299
1	6~7	当法人の認知症対応共同生活介護事業所内において、入居者のトイレ誘導作業中、ホールから「助けて」という悲鳴が聞こえたので駆けつけたところ、男性入居者（認知症、要介護2）が女性入居者を殴りつけようとしていたため、止めようと間に入った際、男性に顔を拳で殴られ左目を負傷した。	45	30 ~ 49
1	8~9	デイサービス利用者様を迎えに行き、自宅前廊下で利用者様を車イスに乗せようとした際、利用者様にいきなり髪の毛を?まれ強く引っぱられてしまった。首が勢いよく後ろに反ったため強い痛みを生じて、首を動かすことができなくなった。	29	—
1	8~9	利用者様の送迎のために早朝出勤し、職場の駐輪場で自転車をひいて歩いていたが、凍結のため激しく転び、ひざを強打した。なかなか立ち上がれず、出勤して来た職員に抱きかかえられ、玄関内へ移動してもらった。	60	30 ~ 49
2	20~21	職員玄関で、自宅へ帰宅するため駐車場へ向かう時に、職員玄関を出てすぐ雪道で滑り転倒した。膀胱と腎臓の間にあった腫瘍が転倒の影響で内出血を起こした。	66	50 ~ 99
2	9~10	入社して事業所に入ろうとしたところ、玄関前に落ちていた氷塊を踏んでしまい転倒した。地面に左手をついた際に骨折した。	64	10 ~ 29
2	10~11	現場を見て、確認出来るものはないが、本人の証言によると、災害当日、利用者が、車両から降りる際、本人に抱きつき、対応しきれず、体に負担がかかったという事である。持病もあり、連鎖的に、弱かった部分に負担がかかってしまったことによるケガとなる。場所は、駐車場である。現場は、雪が積もり、足元は、滑りやすい状況であった。	56	—
2	6~7	敷地内駐車場で車を停めた後、玄関まで歩いている時、路面凍結しており、滑って転倒した。	41	10 ~ 29
		入居者をベッドから車いすへ移動させようと介助していた時、左膝に力が入り過ぎ痛めたものである。負傷当日は大したことがないと思い様子を見ていたが、翌日		10

2	5~6	になって腫れてきたので受診したものである。その後、同じ病院で数日通院し、多少の痛みは有ったものの働いて様子を見ていたが、一向に良くならないため違う病院で治療を受けたものである。	39	~ 29
2	8~9	出勤のため、介護施設の駐車場に到着し、自動車から降りて数メートル歩いたところで、アイスバーンになっていた路面で滑って転倒し右足を負傷した。	49	10 ~ 29
2	7~8	利用者宅に向かう前に、事務所に薬を取りに来た時、事務所の玄関を出たところスロープで滑って転倒し負傷したものである。（スロープに雪が積もっており、下が凍結していた。）	59	50 ~ 99
2	18~19	自社施設入居者宅室内において、就寝介助のため、認知症状のある入居者を誘導していたところ、所持していたPHS（ナースコール）が鳴り、入居者がそれを取ろうと掴みかかり、突き飛ばした。その際、転倒しそうになり、右手を床についてしまった。また、立ち上がった後も右手を掴まれ捻られたため、負傷したものである。	66	10 ~ 29
2	9~10	当施設ユニット内トイレで入居者様の、トイレ介助にて車イスから便座に移乗した際、座りが浅かったので奥深く座ってもらおうとして、力を入れた時入居者様の体重がかかり腰に痛みがはしり、全く動けなくなり受傷した。	52	50 ~ 99
2	14~15	園児の散歩のため、勤務地より移動中、草木の茂ったところを歩いている時に蝉が飞来し、園児をかばおうとした際に右前腕を刺されてしまった。	23	10 ~ 29
2	9~10	就業地であるサービス付高齢者向け住宅にて当月下旬から介護サービスを受けていた利用者が疥癬に感染していることに気付かず利用者に対して通常の介助をしていたため感染が拡がり、当月末頃には痒みの症状が数名のスタッフから出た。最初の利用者が受診した結果、疥癬と診断された。疥癬が疑われるためスタッフが当月末に病院を受診し検査したが認められず、翌月初めの再受診の際に疥癬に感染していることが判明したものである。	60	—
2	13~14	施設内で興奮状態の利用者様を対応している時に背中側に作業で使用している机がある状態で、利用者様に突き飛ばされ背中側にあった机で腰をぶつけ、後ろに倒れ	23	10 ~

		込み、右手で支えようとしたら、右手首を捻ってしまった。		29
2	11~12	入所者様のケアが終わり、入所者様の身体が足元に下がっていたため、本人の背と腰の下に自分の手を入れてベッド上方に動かそうとした際に腰に激痛が起こり立っているのも座っているのも辛い状態になった。	31	50 ~ 99
3	7~8	施設内のごみを屋外のごみ箱に捨てに行く際、雪がうっすらと積もっており、足を滑らせた。身体を支えるため咄嗟に右手をついたが転んでしまい、ごみ袋を持っていた左手を地面に擦った。	54	10 ~ 29
3	5~6	救護施設内の調理員専用駐車場に車を止め、正面玄関へ向かって歩いていたところ、早朝の気温低下で凍結した路面に滑り、転倒した際に後頭部を打った。当初は処置等しなくても問題なく勤務ができていたが、その後、意識障害と左麻痺の症状が現れた。	59	30 ~ 49
3	11~12	倉庫内で2枚立て掛けてあったパレット（110cm×90cm）約20kgを別の場所へ運ぼうと2枚一緒に手で押したところ、手前の1枚が倒れそうになったので支えようとしたが、間に合わずにパレットが倒れ、左足親指を骨折した。	57	50 ~ 99
3	16~17	児童クラブ隣接の校庭で児童達と鬼ごっこをしているとき、追いかけていた児童が突然しゃがんだため、避けようとジャンプし着地のときに右足を捻って転倒し、右膝内側側副靭帯を損傷した。	28	50 ~ 99
3	15~16	サービス利用者をベッドに座らせて横にしようとしたとき、左下腿に激痛が生じた。	42	50 ~ 99
4	8~9	利用者が車イスよりずり落ちそうになっているのを発見し、看護師に手伝ってもらい車イスに座ってもらう。体（上腕）を引き上げる際、右腕に一瞬痛みがはしり違和感を感じた。	56	30 ~ 49
4	14~15	グループホームリビングフロアにて、利用者様が立ち上がる時手を貸したところ、急に手を離しソファに座った為にバランスをくずし、手をついて転倒し、痛みと腫れが続き、手首に変色があった。	65	50 ~ 99
		利用者をベッドから車椅子へ移乗する際、車椅子へ乗せる寸前で利用者が動いたた		50

4	7~8	め、無事着地させようとして自身の上半身を少し捻ったところ、背中を痛めた。	40	~ 99
4	15~ 16	利用者と外出し、（移動支援）利用者が急に走り出したので危険回避のため、右腕で抱き上げる体勢をとった際に右足太ももに違和感を感じ、しびれ及び痛みが生じ、腰部脊柱管神経圧迫症と診断される。	48	1~ 9
4	19~ 20	老人ホーム施設内にて、利用者（女性身長140cm体重41kg）を二人介助で移乗介助のとき、利用者を抱えてストレッチャーからベッドへ移すときに右膝を内側に捻って負傷した。	60	30 ~ 49
4	3~4	夜勤中に入居者様からコールによる呼び出しがあり、居室に伺ったところ、入居者様がベットより立ち上がっていて転倒しそうだった。慌てて入居者様を支えたところ、ベットの柵に入居者様を支えた状態で右手を強打した。	26	50 ~ 99
5	17~ 18	利用者の個室に入り夕食を配膳しようとしたところ、突然利用者が激昂し理解不能な内容の事を叫びながら、介護職員の膝とすね全体を力強く蹴り、左膝と左すね全体を打撲した。	38	50 ~ 99
5	17~ 18	当社デイサービス施設玄関前にて、デイサービス利用者の帰りの送迎対応で利用者に送迎車の後部座席に座ってもらうための乗車介助をしていた際、ステップに足を乗せていたところステップが雨で濡れて足を滑らせ体が傾き、車両内左側の手すりに左胸部下を強打した。	36	50 ~ 99
5	11~ 12	入所者の居室で、昼食時の部屋移動の為にベッドから車椅子へと移乗介助を行っている時に、腰に激しい痛みを感じた。家で安静にしていたが痛みが治まらなかった。	39	100 ~ 299
5	16~ 17	中庭にあるシーソーの真ん中辺りに腰掛け、砂場などで遊んでいる児童達を見守っていた時に、女子児童2名がシーソーにやってきて、シーソーの上で跳びはねたり遊びして飛び下りた際に、その反動で本人の体が飛び上がってそのままシーソーに落ちた。これが2、3回繰り返され、腰と首に衝撃が走り、当日はそのまま業務に就いたが、痛みが残った。	57	10 ~ 29
	10~	グループホーム浴室内で入浴介助中、利用者左シャワーチェアから車椅子へ移乗		100

5	11	介助中に左膝を捻った。	43	～ 299
5	16～ 17	保育園2階テラスのトイレ前で、5歳児クラスの園児が排泄を済ませるのを待っている時、順番待ちをしている園児の頭部と、被害者の鼻がぶつかった。ぶつかった原因は、園児が跳びはねながら前進したのと、被災者がトイレ方向から園児の方へ振り向いたのが同時だったからと考えられる。	27	30 ～ 49
6	12～ 13	利用者（32歳男性、自閉症、噛みつき癖あり）の食事中、被災者は当該利用者の監視をしていたが、安全面を考慮して、利用者が手にしていた棒の使用をやめるよう依頼したところ、左肩を噛まれた。再度噛まれそうになったため避けたところ、左指を噛まれた。事故当時、同じテーブルには当該利用者、被災者の他にスタッフが3名同席していた。	36	1～ 9
6	17～ 18	合同保育の際、畳に正座した状態で2人の園児を抱えていたところ、前方より1人の園児がぶつかってきて、後方へ転倒してしまった。	63	30 ～ 49
6	11～ 12	保育園の遊戯場でぞう組（年長児）が、たる太鼓の練習をしていた時、太鼓のバチを振り回している子を制止しようとした職員の指に、その子のバチが当たってしまった。	22	30 ～ 49
6	15～ 16	デイサービス利用者様を自宅まで送り、居室まで歩行介助していた。居室へ入り、ベッド脇まで行った時、利用者様がバランスを崩し転倒しそうになる。介助者が抱きかかえて転倒は免れたが、利用者様の全体重が介助者にかかってしまう。体勢を立て直そうと利用者様の体を引き上げた際、介助者の体に負担がかかり、腰部に激痛が発生した。	46	10 ～ 29
6	11～ 12	作業場にて、当日の作業内容を説明し、作業を開始した際、利用者様が説明と違う作業を始めた。再度、作業についての声かけを行うと、利用者様がフラッシュバックを起こしてしまい、職員に向かってスコップ及びバケツを投げつけた。その後も落ち着かず、休憩室に場所を移し、ほうきで肩・背中・腰を叩かれた。	38	1～ 9
6	7～8	利用者様のトイレ介助を行っていた際、排泄のために利用者様を抱えた際に腰に痛	60	30 ～

		みがはしり、歩行が困難な状態になった。業務の継続が困難であった。		49
6	10~11	当園の0歳児部屋にて保育中、園児（約7kg）を背中におぶった状態で、泣いている園児（約9kg）を抱きかかえようとした際に、腰に激痛がはしった。	30	10 ~ 29
6	19~20	利用者が居室より出て来られ、歩行のため手すりに手をかけようとしたが届かず、転倒しそうになった。付き添いの被災者が右手で支えようと右手を差し出した際、利用者が被災者の右手を強く握り、掴んだ。その際に右手第4指と右手第5指を痛めた。結果的に利用者は転倒したが、大事には至らなかった。	54	10 ~ 29
7	11~12	高齢者の介護を高齢者本人室でベットから車いすに移すときに、高齢者を抱えたまま転倒して顔面を負傷する	54	10 ~ 29
7	10~11	送迎を終えた母親と園外保育へ行くための職員と子どもが園を出た。通り沿いの歩道で母親を追って行こうと突然走り出した子どもを静止しようと身体を抱きかかえたところ突き離され、その勢いで膝・腰・肩を地面に強打した。	62	10 ~ 29
7	6~7	施設利用者の居室で、おむつ交換の業務中、ベッドの上で硬直している男性利用者の身体を移動させようと力を入れたところ、腰を捻ってしまった。その際、腰部に電気が流れたような激痛がはしり、動けなくなってしまった。しばらく安静にしていたが、徐々に痺れも出てきて歩行困難となった。	43	30 ~ 49
7	8~9	訪問サービス利用者宅にて、利用者が疥癬とは知らずに清拭等の介助を行ったところ、両手から身体にかけて発疹と強い痒みを感じて受診した。しかし原因が解らず、1ヶ月服薬と塗り薬の治療で改善しなかったため、他の病院で受診したところ疥癬と診断された。	57	10 ~ 29
7	1~2	介護施設で入居者の介護時、車椅子への移乗や衣類、寝具、更衣、体の接触を介し感染した。	64	10 ~ 29
		一人目の利用者の入浴介助中、利用者が落とした洗顔料をしゃがんで拾おうとしたとき、腰が張るような違和感があった。その後、午前の入浴介助を中断して様子		

7	15~ 16	をみた。午後の入浴介助にあたり、腰に違和感があるため、5人目までの利用者の入浴介助では移乗介助をしなかったが、最後の利用者の入浴時、1人で対応して怪我をさせたら悪いと思い、2人介助にて対応した。浴槽から椅子へと2人で移乗介助をしようと、右腕を利用者の左脇下に入れ、左手を利用者の左膝下に入れる姿勢で、両脇から抱え上げたときに、腰にズキッと激しい痛みがはしった。移乗介助、着脱支援をして風呂掃除をしようとしたが、痛みが激しくなり、立てなくなった。	24	300 ~ 499
9	11~ 12	お風呂場にて利用者様の入浴介助中、体を洗っている際に少し痛みが走ったが、そのままサービスを続けていた。その後、転倒防止の為、床の水を拭いていたら痛みが強くなった。	53	10 ~ 29
9	11~ 12	デイサービスセンターの入浴介助で、体格の大きい利用者を、ベッドから車いすに移乗する際に、腰に痛みが発生した。	44	100 ~ 299
9	8~9	ユニット型特養の現場にて各居室介護中（移乗排泄更衣等）右手首に違和感を感じる、時間が経過するにつれズキズキと痛みを感じ始める、勤務後はそれほど痛みは気にならなかった、そして翌朝になると右手首小指側に激しい痛みを感じる。物が持てず、手首に何かが触れるだけでも痛みがあり、日常生活にも支障がでる程になり、整形外科を受診する。	26	100 ~ 299
9	16~ 17	3FAユニット食堂にて、Y利用者（男性）が他利用者（女性）の胸を触る行為があり、注意したが、再度触ろうとしたのでもう一度注意したところ怒り出した。女性利用者の側にいたところ、Y利用者が後ろから近づき不意打ちのような感じで右眼こめかみにパンチされた。	43	100 ~ 299
9	10~ 11	生活介護事業所活動室にて、休憩中の重度障害のある男性利用者の方を床に座った状態からソファに移そうとし、正面から両脇に腕を差し入れ利用者の身体を持ち上げたところ、腰部にビリッと激痛がはしり、そのまま動けなくなる。	28	10 ~ 29
10	10~ 11	デイホールにおいて、利用者が車椅子からズレ落ちそうになったので押し上げようとしたところ、腰を痛めてしまったもの。	65	30 ~ 49

10	13～ 14	「福」ユニット3号室にて入居者のトイレ介助時、トイレが終わり衣服を直している時に、立たれている入居者が脱力してしまい、体を支えた際、体をひねってしまい腰を痛めた。	40	50 ～ 99
10	16～ 17	訪問入浴利用者の自宅にて、訪問入浴の作業中に利用者を浴槽からベッドに戻す際に利用者の体格が大きく、また両下肢を切断されている方だったため、利用者を支える自分の手や腕が不安定となっていたところに腰に激痛が走った。	36	30 ～ 49
10	18～ 19	保育園の駐車場で車に乗ろうとして暗くて足元が見えず、石の上に左足がのり、バランスをくずして転び、左手首を骨折した。	70	10 ～ 29
10	16～ 17	特別養護老人ホームで2階男性において、男性入居者の排泄介助（オムツ交換）をベッドの高さを調整せず、低いままのベッド上でおこなっていた際、前傾姿勢を保持中に腰部から臀部にかけて激しい痛みを感じた。	34	50 ～ 99
10	12～ 13	利用者を自宅に送りに行き、玄関ドアを開けたところ、飼い犬が飛び出してきて左足をかまれた。逃げたときに転倒して右足を骨折した。	41	30 ～ 49
11	14～ 15	事業所駐車場で社用車から降車し、事業所入口に向かって歩いていたところ、凍結路面で転倒し、股関節を強打した。一旦事業所内に戻ったが激痛が続いたため、職員に付き添われ整形外科を受診したところ、右大腿骨頸部骨折との診断を受けた。	54	10 ～ 29
11	7～8	出社時、施設内駐車場に車を止め、施設内に入る途中で道が凍結していた為、滑って転倒し、その際、腰及び脇腹を地面に強打し負傷した。	63	30 ～ 49
11	14～ 15	訪問入浴介護の為、利用者様宅へ訪問時、移動入浴車から降り、両手に荷物を持って玄関へ向かう途中、路面が凍結しており、足元が滑り、前のめりに転倒した。右膝を強打し、アゴを擦り剥いた。	64	50 ～ 99
11	12～	被災者が利用者様と脱衣所から浴室へ誘導する際に、その利用者様から、ホールから脱衣所に通じる出入口のドアを閉めるよう依頼された為、素足で出入口に向かっ	50	50 ～

	13	たところ、出入口の手前のコンクリート床で転倒した。その時、体右側から床に転倒した。		99
11	15～ 16	荷積中にボックス台車が転がって来て左足を轢かれてしまった。安全靴を履いていたものの、左足小指を骨折した。何で動いてきたかは不明である。	20	50 ～ 99
11	15～ 16	E棟中央廊下で、気持ちが悪化していた利用者の鞆の紐が首に巻き付き、首が絞めつけられた。気絶寸前になり、他2名の職員に助けられたが、首・肩を負傷した。	36	500 ～ 999
11	15～ 16	入居者の方の個室に訪問すると転倒していた。転倒された方の離床介助のため起こそうとするが相手方の体の強張りがあり、腰に痛みを感じた。次の日痛みがひどくなった。	40	100 ～ 299
12	8'9	通勤途中、敷地内の駐車場から施設へ歩行中に、タイヤショベルの除雪が入った後の滑りやすい路面で足をとられ、転倒して左手をついた際に左手首を痛めた。受傷時は軽度の捻挫だと思っていたが、その後、痛みが増強したため病院に行き検査をした結果、靭帯損傷と診断を受けた。	44	300 ～ 499
12	5'6	当社施設のベランダにて、干してあったまな板を取ろうとしていた。居間のドアを開けて右足を出した瞬間、ベランダが滑りやすくなっていたため転倒し、その際とっさに右手をついたため右手首を骨折した。	72	30 ～ 49
12	16'17	要介護高齢者の利用者宅へホームヘルパーとして介護支援業務を行うため、利用者から依頼された買物を終えて利用者宅の玄関前に着いた時に、車から荷物をおろすため運転席から外に出たところ、凍っていた地面で滑り転倒した。その際に左上腕骨近位部を骨折した。	67	10 ～ 29
12	8'9	デイサービス送迎車準備のために外を歩いていたところ凍結した路面で滑って転倒した。腕に強い痛みがあり、その場から動けなかった為、駆けつけた職員が救急車を要請し、病院へ搬送された。	59	10 ～ 29
12	15'16	利用者様宅でホームヘルパーとして訪問介護をしていた。業務終了後、当法人の事務所へ移動するため地下鉄（利用者様宅より徒歩40分）に向かって歩いてい	31	30 ～

		た。歩いている途中、利用者様宅を出発して3～5分後、凍結し氷になった歩道の上に新雪が少し積もっていたため滑って転倒してしまった。		49
12	16~17	仕事終了後、自家用車を停めている職場の駐車場で、滑って転倒し負傷した。	29	100 ～ 299
12	7~8	事業所敷地内の除雪作業をしていた際、地面が雪のため、本人の不注意により、滑って転倒し負傷した。	36	10 ～ 29
12	6~7	敷地内駐車場に車を止め、就業場所までの通路を歩行中、通路が積雪のため滑り、手をついたところ、右手を骨折した。	66	30 ～ 49
12	16~17	園児を送迎バスから降ろす際、地面が凍結していたため、足が滑り転倒した。乳児を抱えていたため、背中から地面に落ち、背中を強打し負傷した。	55	10 ～ 29
12	10~11	当法人老人ホームでの会議を終え、敷地内に駐車していた車へ急いで歩いていた時、除雪したばかりの凍っていた路面で足を滑らせ転倒した。転倒した際に持っていた荷物を庇おうと右手をついたところ、右手に違和感と痛み、また、右手首が動かなかったため、整形外科を受診し、右手首骨折と診断された。	55	100 ～ 299
12	15~16	介護サービス利用者宅に到着し、利用者宅玄関に向かう途中、灯油配送車が見えたため、自車を移動しようとする際、地面がぬかるんでいたことから足を滑らせ転倒しお尻を強打した。その際、腰に痛みを感じたが、汚れた着衣を交換し、当日もサービス提供を行った。その後、腰に痛みがあるものの、所有していた痛み止めを服用しながら約1週間、サービス提供業務を行っていたが、朝、起き上がることが困難な状態となり、翌日病院を受診し、圧迫骨折と診断され入院した。	66	300 ～ 499
12	19~20	病院敷地内の職員通用口を出た所で、残業を終え帰宅する際、凍結していた路面で足を滑らせ尻もちをつくように転倒した。	31	100 ～ 299

12	16~17	当社デイサービス利用者（1名）を当社送迎車で送迎中、対向車線を走行した車が、凍結した路面でスリップして、対向車線を走行していた当社車両に突っ込んで来た。被災者は避けようとしたが、避けきれずに相手車両が当社車両の運転席ドアにぶつかり、負傷した。	35	10 ～ 29
12	8~9	被災者が勤務先に出勤し、敷地内にある駐車場に車をとめ、そのまま歩いて事業所の建物に向かう途中で、前日から降り続いていた雪で路面が凍結していて、そこで足を滑らせ、後方に尻もちをつく形で転んだ。その際に右手を地面に出したが、右手だけで全体重を支えるような形になり、右手首を痛めてしまった。	54	50 ～ 99
12	17~18	利用者宅にて訪問介護中、利用者の姿勢を直そうとした際に足元の荷物が妨げとなったため、荷物をどかさそうとして手を伸ばした時に右手親指付け根から手首の間を利用者宅の飼い犬に深く噛まれ、受傷したものである。	68	30 ～ 49
12	15~16	被災者は、被災当日、介護入浴サービスの業務の為、計6件の利用者宅を訪問し、浴槽に入った利用者に対し、側面から膝立ちの体勢で、洗体を行った。業務開始前には異常はなかったが、業務を続けるうちに左膝に違和感・痛みを覚えるようになり、業務終了時にはそれらがひどくなり、大きく腫れ曲がらなくなった。作業中に左膝に菌が入ったのではないかとの医師の見解を得た。	18	10 ～ 29
12	15~16	終業後、施設を出て建物の北側にある職員駐車場に徒歩で移動中、降雪中であったために途中にあったコンクリート製の階段の1段目で足を滑らせて後方に転倒し、腰を強打した。	76	30 ～ 49
12	10~11	入浴介助中に、入居者を湯船から中腰姿勢で抱きかかえた際、腰部に激痛がはしかった。痛みが治まらなかったため受診し、その後はコルセットを装着し、腰をかばいながら業務を行っていた。2ヶ月後、入居者居室内にて車椅子からベットへ乗介助するため、入居者を抱きかかえた際に腰部に激痛がはかった。	26	30 ～ 49
12	10~11	利用者居室内にて、利用者（男性60kg）が転倒しており、片麻痺のある方で手足に力が入らず、全介助にて行ったため腰痛を発症した。	50	10 ～ 29
		多目的室にて、入浴前後の男子利用者の管理中、ソファに並んで大人しく座ってい		

12	15~16	<p>た2人の利用者のうち、1人がソファから滑り落ちるように姿勢が低くなった瞬間、もう1人が急変し襲いかかるという問題行動に被災者が気づき、2人の間に近づいた。その際、頭をめぐらして掴みかかる手を払いのけながら、姿勢が低い利用者に立ち上るよう、声かけしていたところ、立ち上がる際にバランスを崩し、被災者を押すように倒れかかったため、被災者は背中から転倒し腰を打ちつけ、しばらく動けなかった。歩くことはできるが、立ち上りや咳で腰に響き、痛みのために腰に力が入らず、押す・引く・荷物を持ち上げるなどの動作ができない状態になった。</p>	62	30 ～ 49
12	15~16	<p>学児施設の廊下にて、見守り中の子供を後ろから抱えようとしたとき、子供の足が絡まり、後ろ向きに転倒し、動けなくなった。</p>	59	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html